

# 推 薦 文

林業経済学会が50周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

これまで林業経済学会に携わってこられました方々のご尽力により、林業経済に関する理論と研究が著しく進展し、ひいては我が国の林業振興に大きく貢献されましたことに対し改めて敬意を表し、感謝申し上げます。

また、この機に記念事業として成果撰集『林業経済研究の論点－50年の歩みから－』が多くの方の参画によりとりまとめられ出版の運びとなりましたこと、重ねてお慶びいたします。この撰集は50年の歴史を年代別にレビューするとともに、色々な分野別の研究論点を網羅し、文献解題、文献リストも付されています。これまでの研究の一覧性に優れた総括を提供するとともに、今後の研究の展開にとって貴重な道標となるものと考えます。

林業はサイクルの長い産業ですが、それでも情勢は刻々と変わっていきます。材価ひいては林業活動の停滞がいわれて久しいですが、新しい風が吹きだしています。例えば合板や集成材などの加工技術が進み、間伐材や曲がり材が利用可能となり、木材自給率も上昇に転じました。厳しい状況を打開しようと低コスト路網と高性能機械を組み合わせた作業体系で生産性を飛躍的に向上させた例、施業内容や収支計画を森林所有者に提案し集約化に成功している例など新しい動きが各地に見られます。世界の資源と環境問題、中国などの旺盛な木材需要など考えると外材偏重も見直しの時期に来ています。

こうした状況を踏まえ、去る9月に策定した新「森林・林業基本計画」では国産材の復活を目指すこととしています。しかしそのためには克服すべき課題も多く、例えば大型ユーザーのニーズに応え大ロットの原木を必要とときに必要なだけ安定供給できるか、低コスト化を徹底し採算性の向上が図られるか、などが問われています。このような課題に産学官をあげて取り組み、川上から川下まで一貫した改革を進めていきたいと考えています。

林業経済学会の皆様の絶大なるご理解とご支援をお願いいたします。

2006年11月

林野庁長官 川村秀三郎